巻末資料２
岐阜県の県土と水辺

巻末資料２　岐阜県の県土と水辺

岐阜県の県土と水辺.. 1

１．岐阜県の水辺環境と水辺に関わる事業の概要.. 1
１．１　岐阜県の河川の概要.. 2
１．２　岐阜県の河川の特徴.. 3
１．３　水辺に関わる事業の概要.. 5
２．各流域の特徴.. 8
２．１　木曽・飛騨川流域.. 8
２．２　揖斐川流域.. 14
２．３　長良川流域.. 18
２．４　土岐川流域.. 23
２．５　矢作川流域.. 26
２．６　宮川（神通川）流域.. 28
２．７　庄川流域.. 31
２．８　九頭竜川流域.. 34
３．各流域河川の特徴と自然環境.. 36
３．１　木曽・飛騨川流域.. 36
３．２　揖斐川流域.. 39
３．３　長良川流域.. 43
３．４　土岐川流域.. 49
３．５　矢作川流域.. 50
３．６　宮川（神通川）流域.. 51
３．７　庄川流域.. 55
３．８　九頭竜川流域.. 57
４．岐阜県の河川災害.. 58
４．１　平成 11 年災害.. 59
４．２　平成 12 年恵南豪雨災害.. 67
４．３　平成 14 年台風６号及び梅雨前線豪雨災害...................................... 68
４．４　平成 15 年９月豪雨災害.. 71
４．５　平成 16 年台風 23 号災害... 74

岐阜県の県土と水辺

1. 岐阜県の水辺環境と水辺に関わる事業の概要

飛山濃水といわれる岐阜県の地形風土は、自然豊かな清流を各所に育み、美しい景観をつくりだし、人々の暮らしと川とを古くより深く結びつけてきました。そして、長良川の鵜飼などの伝統的・文化的な活動も各所で行われています。

安全・安心な暮らしを守るために進めていく治水対策においては、そのような美しい川を将来に残していけるよう、現在の良好な河川環境を保全し、また現状をより改善するよう取り組んでいくことが必要とされます。

ここでは、岐阜県の水辺環境と水辺に関わる事業について紹介します。なお、河川事業だけでなく、他事業においても水辺との関わりが重要であり、様々な取り組みが行われています。

1.1 岐阜県の河川の概要

①地　形

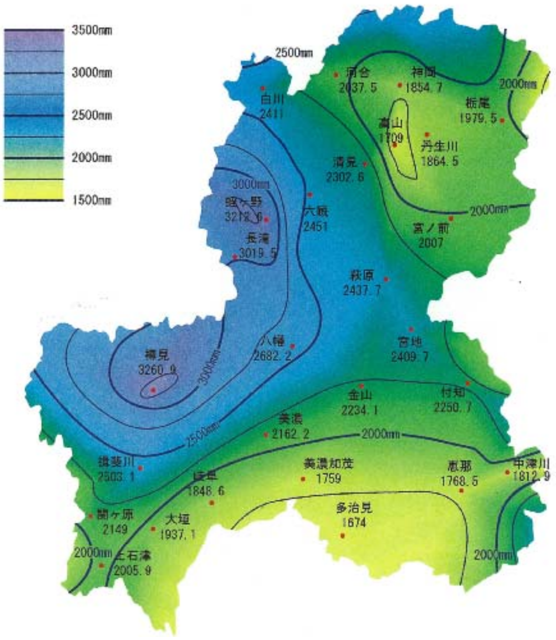
本県はその面積の約 81％が森林で、可住地は約 19％にすぎません。東・北・西の各県境に高い山地を巡らし、長野、富山、石川、福井、滋賀の各県とそれら山地山嶺で境し、南東部は高原状で愛知県に、南西部は平野で、愛知、三重県に連なっている内陸県です。

東西の県境は高峻な山地で、この中間に一段低い山地が南北に連なり、北から南へ高度を低くしています。さらに南部では. 東から西に高地、丘陵、低平地と次第に低くなっています。濃尾平野の木曽川右岸にあたる美濃平野は扇状地、自然堤防、三角州といった地形を持つ典型的な沖積平野です。

②気　象

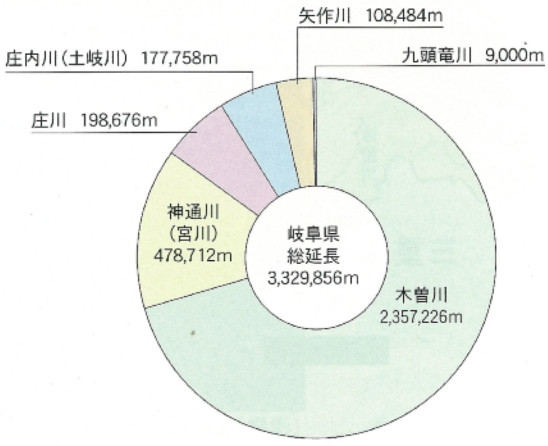
本県の気候は地形的要因とも相まって大きく美濃地方と飛騨地方に分けられます。美濃地方は年平均気温が 15℃と温暖であるのに対し、飛騨地方は年平均気温で５℃程度低く、冬期の降雪量も多いです。年平均降水量を見ると南東部及び北部に少雨地帯があり、県中央部にいくほど雨量が多くなっており、特に西部の福井県との県境付近は 3,000 ㎜以上の多雨地帯となっています。

全体的には、全国平均より多い降水量となっており、県内の河川の豊富な流量のもとになっています。



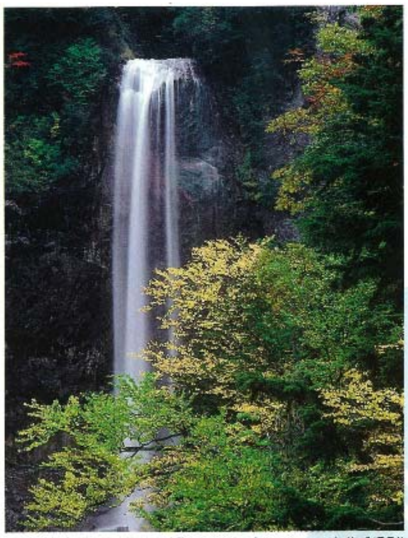
③河川の現況

県内の河川は、太平洋に注ぐ、木曽川水系、庄内川（土岐川）水系、矢作川水系と日本海に注ぐ、神通川（宮川）水系、庄川水系、九頭竜川水系の６水系で構成されており、全て一級河川です。平成 19 年１月現在における一級河川は、435 河川が指定されており、その延長は 3,324 ㎞に達しています。



1. 2 岐阜県の河川の特徴

①豊かな森が川を育てます。



▲平湯大滝（上宝村）　（県民フォトグラファー　安藤氏撮影）

森は雨水を貯め、少しずつ谷に集めては、川を育てていきます。この森は、貴重な水源として、降雨の少ない季節にも安定した水を供給し、大雨の時には洪水を弱める働きをしています。「飛山濃水」として知られるように岐阜県の約８割が森林で覆われ、これは高知県に次いで全国第２位となっています。この豊かな水を保持するために、水源となる森林を大切に保全し、育てていく必要があります。

②水量の豊かさが自慢です。

▲清流長良川と長良川温泉（岐阜市）　（県民フォトグラファー　堀氏撮影）

豊かな森に育てられた岐阜の河川には、豊富な水が流れています。この水は、人々の生活の活力や安らぎとなり、流域の産業や農業の発達に恩恵を与えています。

③岐阜の川は淡水魚の宝庫です。

山地地帯から海抜０ｍ地帯まで変化に富んだ流れは、きれいで豊かな水量のほかに、さまざまな瀬や淵をつくり、生物の生息に良好な環境となっています。魚類の種類は、長良川を含む木曽川水系で全国最多の 72 種となっており、国の天然記念物に指定されている「オオサンショウウオ」、ユニークな求愛行動で知られる「ハリヨ」など、特定水域にしか生息していない生物も確認されています。

④川は「暮らしの水街道」です。

▲八幡町いがわの小径（県民フォトグラファー　池戸氏撮影）

岐阜県は、「山紫水明」の地と言われるように、山に囲まれ、清らかな水がいたる所で流れています。岐阜の多くの都市は川沿いの町並みを形成し、川の恵みを受けながらその絆を深めてきました。特に、岐阜市、美濃市、関市、大垣市などには川湊の名残があり、水運の拠点として産業が発展してきました。現在も、長良川の鵜飼や鮎釣りなど観光資源として、川は流域の活性化に欠かせないものとなっています。

⑤水との闘いは独自の社会風土を生みました。

▲水屋（平田町）

長良川・揖斐川沿いの濃尾平野を中心として、岐阜県は古くから洪水に悩まされてきました。このため、人々は村を「輪中」と呼ばれる堤防で囲み、食糧の備蓄や洪水時の避難場所として住まいの一部を一段高い場所に建てた「水屋」などで、大切な命と財産を守ってきました。岐阜県では、度重なる水害との闘いから、輪中や水屋にみられるような独特の社会風土が生まれ、今に活かされています。

⑥川にまつわる構造物や文化遺産が歴史を物語っています。

▲寒ざらし（八幡町）　（県民フォトグラファー　池戸氏撮影）

清流の流れに彩りが映える郡上の藍染、豊かで清らかな流れに楮をさらす美濃の紙すき、篝火のもと千有余年の歴史が川面に揺れる鵜飼などの伝統産業や龍神祭りなど水への感謝や畏敬の念を奉じるための祭りが、現在も数多く残っています。また、土木技術史上貴重な工法である「たたき工法」で築造された五六閘門など、水害の歴史を静かに見守ってきた治水遺産も残されています。

1．3　水辺に関わる事業の概要

とかく、環境破壊、自然破壊等の暗いイメージもある公共事業ですが、岐阜県においては、以下に紹介する環境や景観に配慮した事業を実施しています。

①ふるさとの川整備事業

水辺は、潤いや安らぎといった精神的な豊かさを求める県民からのニーズが高く、まちの景観形成や住民の憩いの場・地域交流の場として重要な役割を担っています。

一方、治水施設の整備は、急速な都市化の進行に伴い緊急性が高まっていますが、治水対策と合わせてまちの景観形成の一環として水辺の空間を整備していくことは、街の顔として誇れる川づくりのために重要です。このため、水辺の空間整備と一体となった街づくりに熱心な市町村においては、**「ふるさとの川整備事業」**により、良好な水辺空間の整備を行っています。

「ふるさとの川整備事業」
可児川（可児市）

②水辺の楽校

河川改修は場所毎に改修方法が異なり、小学校の近隣で行う**「水辺の楽校」**や病院・福祉施設等の近隣で行う**「水辺の散歩道」**など、その場所の特性に合わせた整備が重要です。「水辺の楽校」は、川が体験学習の場となるように身近な水辺として、自然な河岸、瀬や淵などの創出や水辺に近づける護岸等のアクセス施設の整備を行っています。

「水辺の楽校」
土岐川（瑞浪市）

③自然の水辺復活プロジェクト

本県では、全県水辺のビオトープ化構想を推進するため、現場に携わる行政や民間の現場技術者へ自然共生に対する啓発を行うとともに、より良い工法を産・学・民・官が連携して研究していくことが必要と考え**「自然の水辺復活プロジェクト」**を進めています。この中で、

1　自然共生工法研究会の設立
2　自然共生工法認定制度の創設
3　自然工法管理士認定制度の創設
4　研究フィールドの提供

の４つの施策を連携させて、効果をより高めていきます。

1　自然共生工法研究会の設立

自然共生工法全般にわたり、産学民官が連携して研究・人材育成、産業育成、啓発活動の中心組織となり、県下の自然共生工法普及の推進役を担っていきます。

2　自然共生工法認定制度の創設

河川環境に合った工法を選択して、それぞれの川の個性を活かした川づくりをより一層推進していくことを目的に、自然共生に対して効果的な工法の活用を促進する認定制度を創設し、自然共生に対して効果的な工法や製品の開発・活用促進を図り、ビオトープ産業の育成に繋げていきます。

3　自然工法管理士認定制度の創設

自然共生や環境保護活動に携わる県民の意識、知識及び技術の向上を図り、地域の健全で良質な自然環境の保護、保全する必要性を理解した人材を育成していきます。

4　研究フィールドの提供

研究フィールドである自然共生工法展示場では、研究参加企業が実際の河川を活用して自由な研究が可能です。

④エコ・リバー事業

間伐材等を利用した河川整備を行い、森林の保全と自然環境や生態系に配慮した「自然に優しい工事」を推進し、潤いのある河川空間を創出するため、**「エコ・リバー事業」**を推進しています。特に、治水・利水目的で河川に設置された堰、床固めなどにより魚の遡上が困難な箇所や、特に水生生物の棲息に配慮する必要のある箇所について、その生物の生息環境の改善を行い、良好な河川環境を整備しています。

エコ・リバー実施箇所
（魚道の設置）

⑤環境・景観に配慮した砂防

土砂災害対策を進めていくうえで、生態系等自然環境・景観への負荷をできる限り抑制し、良好な状態で持続的に自然環境・景観を維持、保全していく視点は非常に重要です。

もともと砂防事業は、緑の復元・回復を図り、土砂の生産抑制、流出調整を目的とした対策を実施するものですが、従来にも増して、樹林帯、山腹工斜面緑化工等の各種対策の導入により、緑の復元・回復による自然環境・景観の再生・保全に努めることが大切となっています。

このために本県では、平常時に河川上流から下流へ土砂を流すことにより河川・渓流の流砂の連続性を確保すると共に魚類などの移動に配慮するため、**「砂防堰堤のスリット化」**を積極的に行っています。

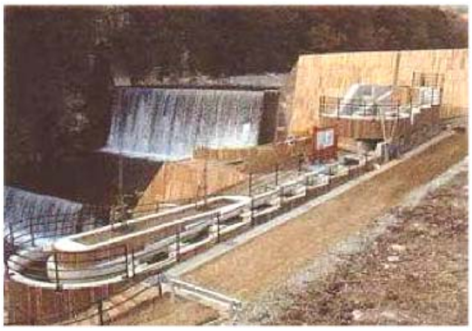
大津谷（揖斐郡池田町）

スリット式砂防堰堤

⑥魚がのぼり易い川づくり推進モデル事業

砂防堰堤は、土砂災害から人々の財産を守るために設置してきたため、これまで川に棲む魚たちの移動経路への配慮が不十分でした。

このため、魚類の移動を阻害する堰や堰堤等の横断施設について、魚類がのぼれるように環境を改善する**「魚がのぼり易い川づくり推進モデル事業」**が平成３年に策定され、長良川（吉田川を含む）がモデル河川としての指定を受けました。長良川の支川である吉田川（郡上市）では、豊富な魚類の生息状況や環境を考慮し、既設の砂防設備に魚道を設置するなどして、魚がのぼる川づくりを進め、様々な魚道施設がある魚道学習施設として整備を進めています。



魚がのぼり易い川づくり推進モデル事業
（上坂本魚道、二連トラック式スパイラル魚道、郡上市明宝）

2. 各流域の特徴

2. 1 木曽・飛騨川流域

①【流域】

木曽川水系は、長野県木曽郡木祖村の鉢盛山（標高 2,446m）を源とする木曽川と、郡上市高鷲町の大日ヶ岳（標高 1,709m）を源とする長良川、揖斐郡揖斐川町の冠山（標高 1,257m）を源とする揖斐川の３河川を幹川とし、山地では峡谷をなし、それぞれ濃尾平野を南流し、我が国最大規模の海抜ゼロメートル地帯を貫いて伊勢湾に注ぐ、流域面積 9,100 ㎞^{2}の我が国でも有数の大河川です。地域では、これら３河川を木曽三川と呼んでいます。

木曽川水系木曽川は、長野県にある木曽谷と呼ばれる渓谷を源流域として、中山道沿いに南南西に下り、中津川市で落合川、中津川、付知川、恵那市で阿木川、美濃加茂市で飛騨川等の支川を合わせながら、濃尾平野に入ります。その後は、北派川、南派川に分派した後、再び合流し、一宮市の西側を南下して、長良川と背割堤を挟んで並行して流れて伊勢湾に注ぐ、流域面積 5,275 ㎞^{2}、幹川流路延長 229 ㎞の一級河川です。このうち、県内の木曽川流域（飛騨川流域、揖斐川流域、長良川流域を除く。以下同じ。）は、幹川流路延長約 122.3 ㎞（県管理約 69.7 ㎞、国管理約 52.6 ㎞）です。

木曽川水系飛騨川は、その源を高山市高根町の乗鞍岳（標高 3,026m）に発し、下呂市で小坂川、馬瀬川、加茂郡白川町で白川、同郡七宗町で神淵川等の支川を合わせ、美濃加茂市で木曽川に合流する、幹川流路延長 136.8 ㎞の一級河川です。

県内の木曽・飛騨川流域の流域面積は、約 3,360 ㎞^{2}です。

木曽川流域は、県の南部～東部（岐阜地区、西濃地区、中濃地区、東濃地区）に位置し、10 市５町（多治見市、関市、中津川市、瑞浪市、羽島市、恵那市、美濃加茂市、各務原市、可児市、海津市、羽島郡岐南町、同郡笠松町、加茂郡坂祝町、同郡八百津町、可児郡御嵩町）から成ります。

飛騨川流域は、県の北東部（中濃地区、可茂地区、東濃地区、飛騨地区）に位置し、５市４町１村（高山市、中津川市、美濃加茂市、郡上市、下呂市、加茂郡川辺町、同郡七宗町、同郡八百津町、同郡白川町、同郡東白川村）から成ります。

なお、下呂市の下呂温泉は、飛騨川・阿多野谷沿いに温泉街が形成されています。

②【地形・地質】

木曽川上流域は、北アルプス、中央アルプスの 3,000m級の高山を水源とするため、地形は急峻で壮年期の景観を呈しています。したがって、流入する各河川はいずれも急流で、浸食力が盛んなことから災害の原因となっています。中津川、落合川付近の上流は中央アルプスの最南端にあり、谷は全山を刻んで浸食が発達しています。この付近より南方の山地は次第に低くなり、丘陵となっています。

中下流域の濃尾平野では、美濃加茂市の木曽川河岸段丘群、各務原市の扇状地地域、更に下流は低平地の氾濫原地域となっています。

上流域の地質は、木曽川南北で分けられ、北部は石英閃緑岩あるいは花崗岩が中心となり、木曽川以南では第三紀層、洪積層、更には古生層が群状に存在しています。

中下流域では、土砂が堆積してできた沖積平野となっています。

飛騨川流域の大部分は急峻な山地で占められ､沿川は峡谷部と平地部に大別されます。沿川にわずかに広がった平野部は、高山市久々野町から下呂市にかけての地区、流域最南端に位置する川辺町に限られます。

流域の地質は、流紋岩や安山岩、花崗斑岩類から成る濃飛流紋岩類が、中流部を中心に多くを占めています。上流部と下流部では、砂岩やチャート等から成る中・古生代層が分布しています。

なお、下呂市から中津川市に抜ける阿寺断層等数多くの断層は、古生層と中生層の崩れ易い風化岩です。

③【気候】

木曽川上流域の気候は、太平洋側気候に属していますが、内陸性気候の様相を呈しています。夏は涼しく、雨は少ない。冬は寒く、晴天の日が多い。雪は少ない。

これに対して下流域は、太平洋側気候に属しています。夏は高温・多湿で厳しく、雨は多い。冬は温暖で、雪は少ない。

流域の中で、豪雪地帯もしくは特別豪雪地帯に指定された地域はありません。

中上流域内にある気象庁地域気象観測所における平均年間気温（平成 14～18 年）と平均年間降水量（平成 14～18 年）は、美濃加茂で 15.2℃、1,757 ㎜、恵那で 13.3℃、1,757 ㎜、中津川で 14.0℃、1,695 ㎜です。

飛騨川上流域の気候は、太平洋側気候に属していますが、冬は日本海側気候の様相を呈しています。夏は涼しいが、雨はきわめて多い。冬は寒さが厳しく、雪天・曇天の日が多い。雪は多い。

これに対して下流域は、太平洋側気候に属しています。夏は日中は高温で、朝夕は涼しい。雨は多い。冬は寒く、雪は少ない。

流域の中で、高山市と下呂市（旧馬瀬村）が豪雪地帯に指定されています。

流域内にある気象庁地域気象観測所における平均年間気温（平成 14～18 年）と平均年間降水量（平成 14～18 年）は、宮之前で 8.5℃、1,939 ㎜、萩原で 12.5℃、2,526 ㎜、宮地で 12.2℃、2,458 ㎜、金山で 13.4℃、2,176 ㎜、黒川で 11.8℃、2,061 ㎜です。

④【交通】

木曽川の上流部では、中央自動車道、国道 19 号、ＪＲ中央本線が、飛騨川合流点付近から下流では、国道 21 号、ＪＲ高山本線、名鉄各務原線が主要交通となっています。

飛騨川流域の主要交通は、飛騨川と並走する国道 41 号、ＪＲ高山本線であり、県都・岐阜市と飛騨の中心都市・高山市とを結ぶ重要な交通ルートの一つです。

⑤【自然景観・文化財・観光資源】

木曽川流域内には、国立公園の指定はなされていません。国定公園の指定は、飛騨木曽川（瑞浪市、恵那市、美濃加茂市、各務原市、可児市、坂祝町、八百津町、御嵩町）の１箇所のみです。県立自然公園の指定は、恵那峡（中津川市、恵那市）、胞山（中津川市、恵那市）、裏木曽（中津川市）の３箇所です。

木曽川流域を象徴する特徴的な河川景観としては、大井ダムの湖岸に屏風岩などの奇岩が卓越する「恵那峡」、丸山ダムの下流にある木曽川の浸食でできた峡谷「蘇水峡」、

早瀬と瀞と奇岩が連続する「木曽川」（国の名勝）、かつての河跡にトンボが多数生息する「トンボ池」（県の名水 50 選、木曽三川三十六景）が挙げられます。

流域の主要な観光資源としては、石畳の敷かれた中山道 43 番宿場「馬籠宿」、花崗岩が何百万年にもわたって浸食された巨岩や奇石の「鬼岩」（国の名勝・天然記念物）、名勝「木曽川」を壮快に流れ下る「日本ライン下り」が挙げられます。

県が選定した流域に残る「ぎふ歴史的土木構造物」としては、大正８年完成の「賤母発電所」、大正８年完成のトラス補鋼吊り橋「對鶴橋」、建設時期が定かでないデ・レーケ様式の「境沢砂防えん堤工群」、大正 15 年完成の木曽川水系で２番目の発電専用ダム「落合ダム・落合発電所」、大正 15 年完成の木製トラス補鋼吊り橋「村瀬橋」、デ・レーケの指導によると思われる石積堰堤群「嫌谷砂防えん堤群」、大正 13 年に木曽川水系で最初に造られた発電専用ダム「大井ダム・大井発電所」、大井ダムのすぐ下流に昭和６年に架け替えられたトラス橋「東雲橋」、昭和 11 年完成の発電専用ダム「笠置ダム・笠置発電所」、明治 44 年完成で木曽川水系最古の近代的発電所「旧八百津発電所資料館」（国の重要文化財）、明治 18 年頃完成でイギリス製の錬鉄ワーレントラス橋「油皆洞橋」、ラジアルゲートを 14 門装備する昭和 18 年完成の「兼山ダム」、昭和 14 年完成の木曽川では最下流のダム式発電所「今渡ダム・今渡発電所」、大正 15 年完成で県下初の近代的道路鋼橋「太田橋」、昭和 26 年に日本で最初に完成したロックフィルダム「小渕ダム」、鉄道・道路の供用橋として昭和 14 年に架設された三連トラス橋「犬山橋」、昭和 12 年完成の下路ブレーストリブタイドアーチ橋「木曽川橋」があります。

この他にも、歴史的土木構造物として国の登録有形文化財に登録された施設には、昭和 15 年完成の重力式練積構造の「山神砂防堰堤」、昭和 24 年完成の切石による重力式空積構造の「二ヶ滝第一砂防堰堤」があります。

飛騨川流域内には、中部山岳国立公園（高山市）が指定されています。国定公園の指定は、飛騨木曽川（美濃加茂市、下呂市、川辺町、七宗町、八百津町、白川町）の１箇所です。県立自然公園の指定は、位山舟山（高山市、下呂市）、野麦（高山市）、せせらぎ渓谷（高山市、下呂市）、御嶽山（高山市、下呂市）の４箇所です。

飛騨川流域を象徴する特徴的な河川景観としては、屏風岩や羅漢岩などの奇岩・怪岩が多い渓谷「中山七里」、長年の濁流により川の岩盤にできた甌穴が圧巻な「飛水峡の甌穴群」（国の天然記念物）が挙げられます。

流域の主要な観光資源としては、白鷺伝説の残る県下随一の名湯「下呂温泉」（日本三名泉）が挙げられます。

県が選定した流域に残る「ぎふ歴史的土木構造物」としては、明治初期に「どんこつ積み」工法で積み上げられた「梅村堤防」、野口雨情も唄った昭和６年完成の鋼ボーストリング・トラス橋「六見橋」、昭和５年完成の鋼ブレーストリブ・アーチ橋「境橋」、大正 15 年完成で現存する吊り橋としては非常に珍しい鋼吊り橋「白川橋」、大正 15 年完成でレンガ造りのレトロな雰囲気漂う水力発電ダム「上麻生ダム・上麻生発電所」、昭和 12 年完成で現存するＲＣラーメン橋では最大級の長さを誇る「山川橋」があります。

⑥【水質】

木曽川の水質は、水質汚濁に係る環境基準の水域類型として、上流でＡＡ類型に、中流でＡ類型に、下流でＡ類型に指定されています。近年の観測結果では、いずれの地点においても環境基準を満足しています。

木曽川の支川の水質は、川上川でＡ類型に、落合川でＡ類型に、中津川上流でＡ類型に、中津川下流でＤ類型に、付知川でＡ類型に、阿木川上流でＡ類型に、阿木川下流でＣ類型に、中野方川でＡ類型に、可児川上流でＢ類型に、可児川下流でＣ類型に、加茂川でＢ類型に、新境川上流でＢ類型に、新境川下流でＣ類型に指定されています。近年の観測結果では、新境川上流以外では環境基準を満足していますが、新境川上流では満足できていません。

飛騨川の水質は、上流でＡＡ類型に、下流でＡ類型に指定されています。近年の観測結果では、ＢＯＤ75％値は基準値の半分程度で推移しており、いずれの地点においても環境基準を満足しています。

飛騨川の支川の水質は、小坂川でＡＡ類型に、馬瀬川でＡＡ類型に、白川でＡＡ類型に、黒川でＡＡ類型に指定されています。近年の観測結果では、いずれの地点においても環境基準を満足しています。

巻末資料 2-12

新境川（各務原市那加地内）	大安寺川 （各務原市鵜沼古市場町地内）	
木曽川（八百津町八百津地内）	可児川（可児市中恵土地内）	久々利川（可児市久々利地内）
木曽川（恵那市笠置町地内）	木曽川（恵那市長島町地内）	
飛騨川（白川町坂の東地内）	神淵川（七宗町神渕地内）	神淵川（七宗町神渕地内）
白川（白川町河岐地内）	黒川（白川町黒川地内）	佐見川（白川町下佐見地内）

飛騨川（下呂市幸田地内）	飛騨川（下呂市三原）	飛騨川 （下呂市萩原町尾崎地内）
馬瀬川（下呂市馬瀬名丸地内）	馬瀬川 （下呂市金山町金山地内）	乗政川（下呂市乗政地内）
山之口川 （下呂市萩原町山之口地内）	山之口川 （下呂市萩原町山之口地内）	山之口川 （下呂市萩原町山之口地内）

2．2 揖斐川流域

①【流域】

木曽川水系揖斐川は、その源を揖斐郡揖斐川町の冠山（標高 1,257m）に発し、山間渓谷を流れ、同町で坂内川を合わせ、再び渓谷を貫流したのち、濃尾平野に出ます。更に南流を続け、同町で粕川、安八郡神戸町で根尾川、養老郡養老町で牧田川、海津市で津屋川、大江川等の支川を合わせ、長良川と背割堤を挟んで並行して流れ、三重県桑名市の東で長良川を合せて伊勢湾に注ぐ、流域面積 1,840 ㎞^{2}、幹川流路延長 121 ㎞の一級河川です。このうち、県内の揖斐川流域（長良川流域を除く。以下同じ。）は、流域面積約 1,800 ㎞^{2}、幹川流路延長約 91.9 ㎞（県管理約 9.5 ㎞、国管理約 82.4 ㎞）です。

揖斐川流域は、県の西部（岐阜地区、西濃地区）に位置し、４市９町（大垣市、瑞穂市、本巣市、海津市、養老郡養老町、不破郡垂井町、同郡関ヶ原町、安八郡神戸町、同郡輪之内町、同郡安八町、揖斐郡揖斐川町、同郡大野町、同郡池田町）から成ります。

②【地形･地質】

揖斐川流域は、上流域には、北に越美山地、西に伊吹山地及び養老山地が連なり、下流域には、東に濃尾平野が広がっています。山地部と平野部の間には、扇状地が発達しています。

越美山地を流れる揖斐川上流域は、揖斐川本川は開析作用が進んで深い渓谷を成していますが、支川根尾川は比較的広い谷幅で、河岸段丘を形成しています。養老山地の東側斜面は､山麓に養老断層が走り､濃尾平野に落ち込む急斜面の断層崖となっています。この急斜面には、「養老の滝」（日本の滝百選、名水百選）を始めとした滝が多く存在しています。また、断層崖を流れる渓流により、山麓には小規模な複合扇状地が発達しています。

下流域に広がる低平地は氾濫原地域であり、その一部は、海抜ゼロメートル以下となっています。

流域の地質は、上流山間部は主として古生層、花崗岩類から成り、「根尾谷断層」（国の特別天然記念物）など数多くの断層が見られます。なお、古生層は砂岩、粘板岩等で構成されていて、脆弱です。

木曽三川が集まる低平地は、三川がもたらす土砂が堆積してできた沖積平野であるため、礫層と泥層が互層になっており、礫層が帯水層となっています。

③【気候】

揖斐川上流域の気候は、太平洋側気候に属していますが、冬は日本海側気候の様相を呈しています。夏は日中は高温で、朝夕は涼しい。雨はきわめて多い。冬は寒く、雪天・曇天の日が多い。雪はきわめて多い。

これに対して下流域は、太平洋側気候に属しています。夏は高温・多湿で厳しく、雨は多い。冬は温暖で、雪は少ない。冬の温暖な気候を生かし、最下流の海津市南濃町は、県内で唯一のミカンの産地となっています。伊吹山から吹き下ろす季節風「伊吹おろし」のため、気温の割に寒さを感じます。

流域の中で、関ヶ原町と揖斐川町（特別豪雪地帯以外）が豪雪地帯に、揖斐川町（旧坂内村、旧徳山村）が特別豪雪地帯に指定されています。

流域内にある気象庁地域気象観測所における平均年間気温（平成 14～18 年）と平均年間降水量（平成 14～18 年）は、樽見で 13.0℃、3,376 ㎜、揖斐川で 15.6℃、2,529 ㎜、関ヶ原で 14.5℃、2,149 ㎜、大垣で 16.3℃、1,940 ㎜です。

④【交通】

揖斐川の上流部では、国道 303 号、同 417 号が主要交通となっています。

揖斐川の下流部は、濃尾平野の北西部に位置しており、各種交通が整備されています。道路網は、縦横無尽に張り巡らされており、東西に名神高速道路、国道 21 号が、南北に国道 258 号、同 417 号が基軸道路です。鉄道網としては、東西にＪＲ東海道新幹線、ＪＲ東海道本線が、南北に樽見鉄道、養老鉄道が通っています。

⑤【自然景観・文化財・観光資源】

揖斐川流域内には、国立公園の指定はなされていません。国定公園の指定は、揖斐関ヶ原養老（大垣市、本巣市、海津市、養老町、垂井町、関ヶ原町、揖斐川町、池田町）の１箇所のみです。県立自然公園の指定は、千本松原（海津市）、揖斐（揖斐川町）、伊吹（大垣市、揖斐川町、池田町）の３箇所です。

揖斐川流域を象徴する特徴的な河川景観としては、西美濃随一の景勝地「揖斐峡」（飛騨・美濃紅葉三十三選）、養老山麓の大自然を採り入れた都市公園「養老公園」（県営公園）、水がお酒になった孝子伝説の残る「養老の滝」（日本の滝百選、名水百選）、揖斐川と長良川を分ける約１㎞の背割堤「千本松原（油島千本松締切堤）」（国の史跡、ぎふ歴史的土木構造物）が挙げられます。

流域の主要な観光資源としては、奥の細道結びの地にある「住吉燈台」（県の史跡）、洪水の氾濫から地域を守るために周囲を囲むように築かれた堤防「輪中堤」、洪水に備えて母屋よりも一段高く建てられた家「水屋」、濃尾地震で地表に現れた「根尾谷断層」（国の特別天然記念物）、菊花石の中で最高級の価値がある「根尾谷の菊花石」（国の特別天然記念物）、渓谷との調和が非常に美しい桜の名所「霞間ヶ渓のサクラ」（国の名勝・天然記念物）、張った竹の簀で産卵のため川を下るアユを獲る昔ながらの漁法「ヤナ」が挙げられます。

県が選定した流域に残る「ぎふ歴史的土木構造物」としては、大正 10 年に運用が開始された「東横山発電所」、大正 12 年に運用が開始された「根尾発電所」、明治 19 年の東海道本線開通時に造られた「揖斐川橋（旧揖斐川橋梁）」（国の重要文化財）、鉄道・道路の供用橋として昭和８年に架設されたトラス橋「揖斐大橋」、平治の乱に敗れた源義朝がこの地から舟で津屋川を下ったとされる「源氏橋」、デ・レーケの指導により明治 21 年に建設された「羽根谷砂防堰堤（第一堰堤）」（国の登録有形文化財）、同じく明治 10 年代に中部地方で初めて建設された「般若谷えん堤群」があります。

この他にも、歴史的土木構造物として国の登録有形文化財に登録された施設には、デ・レーケの指導により明治期に建設された「羽根谷砂防堰堤」があります。

⑥【水質】

揖斐川の水質は、水質汚濁に係る環境基準の水域類型として、ＡＡ類型に指定されている区間と、Ａ類型に指定されている区間があり、近年の観測結果では、ＡＡ類型に指定されている区間の一部でＢＯＤ75％値 1.1mg/l を記録(H19)し、満足できていません。

支川の水質は、粕川でＡＡ類型に、根尾川でＡＡ類型に、三水川でＡ類型に、牧田川上流でＡＡ類型に、牧田川中流でＡ類型に、牧田川下流でＣ類型に、杭瀬川でＡ類型に、相川でＢ類型に、水門川でＤ類型に、津屋川でＢ類型に指定されています。近年の観測結果では、いずれの地点においても環境基準を満足しています。

揖斐川 （揖斐川町開田地内）	揖斐川・徳山ダム （揖斐川町開田地内）	
揖斐川（揖斐川町乙原地内）	揖斐川（揖斐川町三輪地内）	揖斐川（神戸町落合地内）
揖斐川（大垣市深池町地内）	揖斐川（海津市海津町 七右衛門新田地内）	

2.3 長良川流域

①【流域】

木曽川水系長良川は、その源を郡上市高鷲町の大日ヶ岳（標高 1,709m）に発し、山間部を南流し、同市八幡町で吉田川、亀尾島川、美濃市で板取川を合わせ、中濃盆地の平地に出ます。引き続き南流し、関市で武儀川、津保川を合わせ、金華山下に展開する岐阜市街に達します。更に濃尾平野を南下し、伊自良川、犀川、境川、桑原川を合わせ、木曽川及び揖斐川と背割堤を挟んで並行して流れ、三重県桑名市の東部で揖斐川に合流する、流域面積 1,985 ㎞^{2}、幹川流路 166 ㎞の一級河川です。

このうち、県内の長良川流域は、流域面積約 1,985 ㎞^{2}、幹川流路延長約 144.6 ㎞（県管理約 103.9 ㎞、国管理約 40.7 ㎞）です。

長良川流域は、県の中部（岐阜地区、西濃地区、中濃地区、可茂地区）に位置し、12市７町（岐阜市、大垣市、関市、美濃市、羽島市、美濃加茂市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣市、郡上市、海津市、羽島郡岐南町、同郡笠松町、安八郡輪之内町、同郡安八町、本巣郡北方町、加茂郡富加町、同郡川辺町）から成ります。

岐阜市の中心市街地は、長良川沿いに形成されています。

②【地形・地質】

長良川流域の地形は、板取川合流点の前後、最下流の平地部の３つに大別できます。

板取川合流点より上流の地形分有状況を見ますと、大日ヶ岳周辺が大日ヶ岳火山群、長良川と吉田川に囲まれた山岳地帯が鷲ヶ岳火山群、吉田川沿川が飛騨高地、郡上市白鳥町一帯が白鳥盆地、長良川右岸の板取川・武儀川上流域までが美濃山地、長良川の吉田川合流点付近から下流の左岸及び津保川上流域・板取川下流域・武儀川中流域が美濃高地のように山地、高地の地形となっています。

板取川合流点より下流では、関市一帯が関盆地、美濃加茂市付近が東濃丘陵と美濃太田盆地、長良川の津保川合流点より下流部が西美濃丘陵のように盆地、丘陵地となっています。

最下流の平地部は低平地で、濃尾平野中央部の氾濫原地域となっています。山地部と平野部の間には、扇状地が発達しています。

流域の地質としては、上流部の烏帽子岳及び大日ヶ岳の山裾一帯に、火山性岩石に属する安山岩質岩石が広く分有し、吉田川中流域、亀尾島川上流域、板取川上流域には火山性岩石に属する流紋岩質岩石が分布しています。牛道川合流点から吉田川合流点の区間の長良川周辺には、主に砂岩が分布しています。吉田川合流点から下流については、主にチャート、泥岩、砂岩等が分布しています。低平地は、三川がもたらす土砂が堆積してできた沖積平野となっています。

③【気候】

長良川上流域の気候は、太平洋側気候に属していますが、冬は日本海側気候の様相を呈しています。夏は日中は高温で、朝夕は涼しい。雨はきわめて多い。冬は寒さが厳しく、雪天・曇天の日が多い。雪は多い。

これに対して下流域は、太平洋側気候に属しています。夏は高温・多湿で、雨は多い。冬は温暖で、雪は少ない。下流の平野部では、伊吹山から吹き下ろす季節風「伊吹おろし」のため、気温の割に寒さを感じます。

流域の上流部では、豪雪地帯に指定されています。

流域内にある気象庁地域気象観測所における平均年間気温（平成 14～18 年）と平均年間降水量（平成 14～18 年）は、長滝で 11.6℃、3,337 ㎜、八幡で 12.9℃、2,760 ㎜、美濃で 14.7℃、2,345 ㎜、岐阜で 16.2℃、1,785 ㎜です。

④【交通】

長良川の上流部では、東海北陸自動車道、国道 156 号、長良川鉄道が主要交通となっています。

長良川の下流部は濃尾平野の北部に位置しており、各種交通が整備されています。道路網は、縦横無尽に張り巡らされており、東西に名神高速道路、国道 21 号が、南北に東海北陸自動車道、国道 156 号が基軸道路です。鉄道網としては、東西にＪＲ東海道新幹線、ＪＲ東海道本線、名鉄各務原線が、南北に名鉄名古屋本線が通っています。

⑤【自然景観・文化財・観光資源】

長良川流域内には、白山国立公園（郡上市）が指定されています。国定公園の指定はなされていません。県立自然公園の指定は、千本松原（海津市）、奥長良川（関市、美濃市、郡上市）の２箇所です。

長良川流域を象徴する特徴的な河川景観としては、清流と郡上おどりの街「郡上八幡」、四季折々の景観が美しい断崖の渓谷「板取渓谷」、長良川河畔にそびえる「岐阜城・金華山」、木曽川と長良川を分ける約 10 ㎞の「背割堤の桜並木」が挙げられます。

流域の主要な観光資源としては、水舟という水利用形態が残る湧水「宗祇水」（県の史跡、名水百選）、洪水の氾濫から地域を守るために周囲を囲むように築かれた堤防「輪中堤」、洪水に備えて母屋よりも一段高く建てられた家「水屋」、宝暦治水の義士を祭る社殿と緑陰を宿す松林の「治水神社」、長良川の源流域でのんびりとのどかな風景が魅力の「ひるがの高原」、郡上本染鯉のぼりが清流吉田川を彩る冬の風物詩「鯉のぼり寒ざらし」、張った竹の簀で産卵のため川を下るアユを獲る昔ながらの漁法「ヤナ」、御料鵜飼で長良川の夏の風物詩である「小瀬鵜飼い」と「長良川鵜飼い」、長良川鵜飼い開催場所でもある「長良川の水浴場」（日本の水浴場 88 選）、毎年夏に２回行われる全国規模の「長良川花火大会」、寒風が吹きすさぶ長良川に飛び込んでもみ合う「池の上の裸祭り」が挙げられます。

県が選定した流域に残る「ぎふ歴史的土木構造物」としては、明治 43 年完成で長良川唯一の水力発電所「長良川発電所」（国の登録有形文化財）、大正３年に運転を開始した「井の面第一制水門・発電所」、大正５年完成で日本に現存する最古の近代吊橋「美濃橋」（国の重要文化財）、昭和９年完成のＲＣ方杖ラーメン橋「松谷橋」、昭和５年完成で岐阜市南部地区への上水道の水源「鏡岩水源地旧ポンプ室・旧エンジン室」（国の登録有形文化財）、樋管側壁が昭和８年の建設当時の面影を偲ばせる「忠節用水第２樋門」、昭和 15 年完成の畳を挟み込む角落とし構造が特徴の「忠節の特殊堤」、昭和 23 年完成で当時からの美しいアーチが映える鋼製アーチ橋「忠節橋」、昭和８年完成の「今泉排水機場」、明治 40 年完成で県内唯一の人造石樋門「五六用水逆水樋門」、昭和９年完成のＲＣ水門「犀川制水樋門」、鉄道・道路の供用橋として昭和８年に架設されたトラス橋「長良大橋」があります。

⑥【水質】

長良川の水質は、水質汚濁に係る環境基準の水域類型として、上流でＡＡ類型に、中流でＡ類型に、下流でＡ類型に指定されています。近年の観測結果では、ＢＯＤ75%値は 0.9mg/l 以下で推移しており、いずれの地点においても環境基準を満足しています。

支川の水質は、吉田川でＡＡ類型に、板取川でＡＡ類型に、武儀川でＡ類型に、津保川でＡ類型に、伊自良川上流でＡ類型に、伊自良川下流でＣ類型に、鳥羽川でＢ類型に、境川上流でＤ類型に、境川下流でＣ類型に、荒田川でＢ類型に、糸貫川の乙井樋門より下流でＤ類型に、桑原川でＣ類型に指定されています。近年の観測結果では、桑原川以外では環境基準を満足していますが、桑原川では環境基準値前後の値となっています。

桑原川（羽島市江吉良町地内）

犀川（本巣市下真桑地内）

境川（岐阜市柳津町地内）

境川（岐阜市鶉地内）

糸貫川（北方町三橋地内）

鳥羽川（岐阜市岩崎地内）

新川（山県市高富地内）

両満川（岐阜市西中島地内）

長良川（関市戸田地内）

長良川（関市保明、下白金地内）

長良川（関市池尻地内）

長良川（美濃市笠神地内）

長良川（美濃市前野地内）

今川（関市保明、下白金地内）

津保川（関市上大野地内）	津保川（関市上大野地内）	津保川（関市上之保地内）
板取川（関市板取地内）	板取川（関市板取地内）	
長良川 （郡上市美並町上田地内）	長良川 （郡上市八幡町西乙原地内）	長良川 （郡上市大和町島地内）
長良川 （郡上市八幡町有坂地内）	長良川 （郡上市白鳥町歩岐島地内）	長良川 （郡上市高鷲町大鷲地内）
吉田川 （郡上市八幡町島谷地内）		

2.4 土岐川流域

①【流域】

庄内川水系庄内川は、その源を恵那市山岡町の夕立山（標高 727m）に発し、県内では土岐川と呼ばれ、瑞浪市で小里川、土岐市で肥田川、妻木川、多治見市で笠原川等の支川を合わせ、岐阜・愛知県境に位置する玉野渓谷を抜け、濃尾平野に出ます。その後、矢田川等の支川を合わせて名古屋市の北西部を流下して伊勢湾に注ぐ、流域面積 1,010 ㎞^{2}、幹川流路延長 96 ㎞の一級河川です。

このうち、県内の土岐川流域は、流域面積約 430 ㎞^{2}、幹川流路延長約 50.7 ㎞（県管理約 33.4 ㎞、国管理 17.3 ㎞）です。

土岐川流域は、県の東部（可茂地区、東濃地区）に位置し、５市（多治見市、瑞浪市、恵那市、土岐市、可児市）から成ります。

流域には、伝統的な美濃焼の一大生産地としての陶磁器関連産業が集積しています。

多治見市、瑞浪市、土岐市の中心市街地は、土岐川沿いの盆地部に集中して形成されています。

丘陵地においては、研究開発施設・工業団地・住宅団地等の開発や、ゴルフ場開発が多く、多治見市を中心に名古屋市近郊のベッドタウンとなっています。また、水田の灌漑を目的とした、ため池が古くから多数点在しています。

②【地形・地質】

土岐川流域の地形は、標高 100m～800m程度の全体的になだらかな山地、丘陵状の地形の中に山地と渓谷部（狭窄部）で分断された複数の盆地から成っています。

流域の地質は、中・古生代から新生代第四紀初めまでの各種の岩石・地層が分布し、複雑な構成となっています。土岐川沿川では主に濃飛流紋岩類、領家花崗岩類、中新層（瑞浪層群）、中・古生層が分布し、それを土岐砂礫層（瀬戸層群）が薄く覆っています。また、流域の東部から南部にかけて屏風山断層、笠原断層、岩村断層等が平行して走り、これらの断層の間では、領家花崗岩類が広く見られます。第三紀の中新層（瑞浪層群）では数多くの化石が発見されており、更に多治見市と土岐市に分布する土岐口陶土層（瀬戸層群）は、古くから陶磁器の原料となる粘土を産出し、この地方の地場産業となっている窯業の極めて重要な資源となっています。一方、第三紀の地層は地すべりを起こし易い特性を有しており、県内の地すべり危険箇所の７割が東濃地方に集中しています。

③【気候】

土岐川流域の気候は、太平洋側気候に属していますが、内陸性気候の様相を呈しています。夏は日中は高温で、朝夕は涼しい。雨は少ない。冬は寒く、晴天の日が多い。雪は少ない。恵那市山岡町では、冬の気候を活かした寒天作りが盛んです。

流域の中で、豪雪地帯もしくは特別豪雪地帯に指定された地域はありません。

流域内にある気象庁地域気象観測所における平均年間気温（平成 14～18 年）と平均年間降水量（平成 14～18 年）は、多治見で 15.4℃、1,587 ㎜です。

とりわけ、多治見市では、夏期には内陸性の気候に加え、近年のヒートアイランド現象、更には、西風が吹いた際には関西地方の熱風が伊吹山系によりフェーン現象を起こして気温が上昇するため、毎年国内の最高気温を記録することが多くなっています。平成 19 年８月 16 日には、国内過去最高気温 40.9℃を記録しました。

④【交通】

土岐川流域の主要交通は、東西の中央自動車道、国道 19 号、ＪＲ中央本線、南北の東海環状自動車道です。特に、平成 17 年３月に東回りルートが開通した東海環状自動車道は、東濃地方と愛知県三河地方とを結び、中京圏の経済発展に寄与する重要な路線です。

⑤【自然景観・文化財・観光資源】

土岐川流域内には、国立公園、国定公園の指定はなされていません。県立自然公園の指定は、土岐三国山（土岐市）の１箇所のみです。

流域には、乙塚古墳附段尻巻古墳（国の史跡）や狐塚古墳（県の文化財）、元屋敷陶器窯跡（国の史跡）や陶磁器関係の資料館、妻木城跡（県の史跡）や小里城山城跡（県の史跡）に代表される土岐氏に関わるものなど、流域の歴史を物語る多数の史跡・文化財がある。その他に、虎渓山永保寺（国の名勝。国宝の観音堂等あり）、日本三大修道院の神言会多治見修道院などが挙げられます。

県が選定した流域に残る「ぎふ歴史的土木構造物」としては、昭和 18 年完成の切石による重力式空積構造の「浦山第二砂防堰堤」（国の登録有形文化財）、白と赤のコントラストが美しい大正 15 年完成の「天ヶ橋」があります。

⑥【水質】

土岐川流域の河川は、昭和 40 年代は陶磁器産業や生活排水の影響を受け、白い濁りのある水が流れていましたが、排水規制や下水道整備が進み、現在は環境基準を達成出来るまで改善されてきました。

土岐川の水質は、水質汚濁に係る環境基準の水域類型として、上流でＡ類型に、下流でＢ類型に指定されています。近年の観測結果では、ＢＯＤ75％値は 1.4mg/l 以下で推移しており、いずれの地点においても環境基準を満足しています。

支川の水質は、小里川でＢ類型に、肥田川でＢ類型に、妻木川でＢ類型に、笠原川でＡ類型に指定されています。近年の観測結果では、ＢＯＤ75％値は 1.4mg/l 以下で推移しており、いずれの河川においても環境基準を満足しています。

土岐川 （瑞浪市土岐町地内）	土岐川 （瑞浪市土岐町地内）	土岐川 （瑞浪市土岐町地内）
土岐川 （瑞浪市和合町地内）	土岐川 （瑞浪市和合町地内）	

2.5 矢作川流域

①【流域】

矢作川水系矢作川は、その源を長野県下伊那郡阿智村の大川入山（標高 1,908m）に発し、恵那市で上村川、明智川、阿妻川等の支川を合わせ、岐阜・愛知県境の山間部を貫流します。平野部で巴川、乙川等の支川を合流した後、矢作古川を分派して三河湾に注ぐ、流域面積約 1,830 ㎞^{2}、幹川流路延長約 118 ㎞の一級河川です。

このうち、県内の矢作川流域は、流域面積約 240 ㎞^{2}、幹川流路延長約 17.8 ㎞（県管理約 8.2 ㎞、国管理 9.6 ㎞）です。

矢作川流域は、県の東部（恵那地区）に位置し、恵那市の一部（旧山岡町、旧明智町、旧串原村、旧上矢作町）から成ります。

②【地形・地質】

矢作川流域の地形は、美濃三河高原が川によって刻まれ、谷底の平地に集落が形成されています。

流域の地質は、中生代の白亜紀から新生代にかけて生成された領家帯花崗岩類が大部分を占めています。地表の花崗岩はマサ化して崩壊し易いため、降雨時等には大量の土砂が流出します。

③【気候】

矢作川流域の気候は、太平洋側気候に属していますが、内陸性気候の様相を呈しています。夏は涼しく、雨は少ない。冬は寒いが、雪は少ない。

流域の中で、豪雪地帯もしくは特別豪雪地帯に指定された地域はありません。

流域内では、気象庁地域気象観測所による気温と降水量の観測は行われていません。

④【交通】

矢作川流域の主要交通は、恵那市中心部と愛知県新城市方面とを結ぶ国道 257 号、愛知県瀬戸市方面とを結ぶ国道 363 号、長野県飯田市方面とを結ぶ国道 418 号です。これらの国道を県道が繋ぐ形となっています。

⑤【自然景観・文化財・観光資源】

矢作川流域内には、国立公園、国定公園、県立自然公園の指定はなされていません。

恵那市上矢作町から長野県下伊那郡平谷村に抜ける国道 418 号沿いの達原渓谷は、上村川上流にあり、秋が深まると両岸の木々が赤や黄に染まり、色鮮やかな渓谷美を演出します。

この流域では、団子杉（県の天然記念物）、「大船神社参道のマツ並木」（県の天然記念物）、「大船神社の弁慶スギ」（県の天然記念物）が有名な植生です。

観光資源としては、日本大正村、福寿の里モンゴル村、上矢作風力発電所などが挙げられます。

県が選定した流域に残る「ぎふ歴史的土木構造物」としては、昭和 11 年完成の上路方杖コンクリートラーメン橋「旧国界橋」があります。

⑥【水質】

矢作川の水質は、水質汚濁に係る環境基準の水域類型として、矢作ダムより上流でＡＡ類型に指定されています。近年の観測結果では、ＢＯＤ75%値は 0.7mg/l 程度で推移しており、環境基準を満足しています。

支川の水質は、上村川でＡＡ類型に、明智川でＡ類型に、阿妻川でＡ類型に指定されています。近年の観測結果では、ＢＯＤ75%値は 0.6mg/l 前後で推移しており、いずれの地点においても環境基準を満足しています。

上村川 （恵那市上矢作町本郷地内）	上村川 （恵那市上矢作町本郷地内）	上村川 （恵那市上矢作町小笠原地内）
上村川 （恵那市上矢作町漆原地内）	上村川 （恵那市上矢作町漆原地内）	上村川 （恵那市上矢作町漆原地内）

2.6 宮川(神通川)流域

①【流域】

神通川水系宮川は、その源を高山市一之宮町の川上岳（標高 1,626m）に発し、同市で江名子川、大八賀川、苔川、川上川、小八賀川、瓜巣川、宇津江川を合わせ、飛騨市において荒城川、太江川、戸市川、小鳥川等の支川を合わせます。岐阜・富山県境で高原川と合流して神通川と名前を変え、富山平野を流下して富山湾に注ぐ、流域面積約 2,720 ㎞^{2}、幹川流路延長約 120 ㎞の一級河川です。

このうち、県内の宮川（神通川）流域は、流域面積約 1,980 ㎞^{2}、幹川流路延長約 76.2 ㎞です。

宮川（神通川）流域は、県の北部（飛騨北部地区）に位置し、２市（高山市、飛騨市）から成ります。

高山市の中心市街地は、宮川沿いに形成されています。また、高山市の奥飛騨温泉郷は、高原川・蒲田川沿いに温泉街が形成されています。

②【地形・地質】

宮川（神通川）流域の大部分は山地で占められ、その地形は高山市街地を中心とした高山盆地の周りを飛騨高原が取り囲み、東に槍ヶ岳、穂高岳、乗鞍岳などが連なる飛騨山脈、西には白山に代表される両白山地がそびえています。平地としては、高山・古川の両盆地の他には、わずかに河岸段丘があるに過ぎません。

流域の地質は、飛騨高原を中心とした船津花崗岩類、高原火山岩類、濃飛流紋岩類、飛騨変成岩類が分布しています。

③【気候】

宮川（神通川）上流域の気候は、日本海側気候に属しています。夏は涼しいが、雨は多い。冬は寒さが厳しく、雪天・曇天の日が多い。雪は多い。

これに対して下流域は、日本海側気候に属しています。夏は涼しいが、雨は多い。冬は寒さが厳しく、雪天・曇天の日が多い。雪はきわめて多い。

流域の上流部は豪雪地帯に、下流部は特別豪雪地帯に指定されています。

流域内にある気象庁地域気象観測所における平均年間気温（平成 14～18 年）と平均年間降水量（平成 14～18 年）は、河合で 10.6℃、2,228 ㎜、神岡で 11.5℃、2,118 ㎜、栃尾で 9.7℃、2,064 ㎜、高山で 11.4℃、1,805 ㎜です。

④【交通】

宮川（神通川）流域の主要交通は、南北の国道 41 号、ＪＲ高山本線、東西の中部縦貫自動車道（高山清見道路）、国道 158 号です。奥飛騨温泉郷からの安房峠道路は、国道 158 号のバイパスで、長野県へと通じています。その他に、高山市清見町と中濃地区と

を結ぶ主要地方道高山清見線・国道 257 号・同 472 号（せせらぎ街道）、奥飛騨温泉郷を通り国道 41 号と同 158 号とを結ぶ同 471 号も重要な路線です。

⑤【自然景観･文化財･観光資源】

宮川（神通川）流域内には、中部山岳国立公園（高山市、飛騨市）が指定されています。国定公園の指定はなされていません。県立自然公園の指定は、奥飛騨数河流葉（飛騨市）、宇津江四十八滝（高山市）、位山舟山（高山市）、せせらぎ渓谷（高山市）、天生（飛騨市）の５箇所です。

流域の歴史は非常に古く、独自の文化を築き上げてきました。高山市はその昔国府が置かれ、飛騨国分寺（国の史跡等）なども建立されており、飛騨地方における中心地として栄えてきました。伝統工芸では一位一刀彫に代表されるように、高い技術を持った飛騨の匠によって作りだされる木製家具や飛騨春慶塗りが有名です。この他、流域を彩る文化として、屋台で有名な高山祭り（国の重要無形民俗文化財）、起し太鼓の古川祭り（国の重要無形民俗文化財）、加えて神岡祭りは、飛騨三大祭りとして知られています。

宮川本川及び周辺には、あじめ峡、桜野公園、千代の松原公園、宇津江四十八滝（県の天然記念物）等の景勝地があり、地域住民の憩いの場や観光名所となっています。また、「二宮神社のケヤキ」（県の天然記念物）、「加茂のイチョウ」（県の天然記念物）、古墳、城館跡等の埋蔵文化財包蔵地が数多くあり、歴史の深さを物語っています。

高山市内を流れる宮川の東側には、古い町並みが残り、一年を通じて多くの観光客が訪れます。

河川にまつわる行事としては、夏に、江名子川で七夕祭り、宮川の中橋付近で鐘楼流しが行われ、春には大八賀川で県立斐太高校の白線流し等が行われます。

高原川及び蒲田川沿川には、平湯温泉、福地温泉、新平湯温泉、栃尾温泉、新穂高温泉（すべて国民保養温泉地）から成る奥飛騨温泉郷があります。

高原川本川源流部の乗鞍岳には乗鞍スカイラインが、蒲田川源流部には新穂高ロープーウェイが通っており、雄大な自然を満喫することができます。

県が選定した流域に残る「ぎふ歴史的土木構造物」としては、明治 44 年完成で長さ約 250mの玉石積堤防「中北堤防」、大正 14 年完成の重力式表面石張りコンクリートダム「蟹寺発電所・取水えん堤」、大正 10 年までに 14 基が建設された空石積の「桑谷砂防えん堤群」、昭和９年完成の練石積コンクリート造りの「足洗谷第一号砂防堰堤」（国の登録有形文化財）、昭和５年完成の鋼製トラス橋「藤波橋」、昭和初期における国内唯一のマイヤール型ＲＣアーチ橋「宝橋」があります。

この他にも、歴史的土木構造物として国の登録有形文化財に登録された施設には、昭和９年完成で堤体の基部に巨石を積むのが特徴的な「岩坪谷第一号砂防堰堤」、昭和 12 年完成の「岩坪谷第三号砂防堰堤」、昭和 13 年完成で立面形状が特徴的な「岩坪谷第二号砂防堰堤」、昭和 27 年完成で堤体のほぼ中央に大規模な欠円アーチ形暗渠を持つ「日影第一号砂防堰堤」があります。

⑥【水質】

宮川の水質は、水質汚濁に係る環境基準の水域類型として、上流でＡＡ類型に、下流でＡ類型に指定されています。近年の観測結果では、ＢＯＤ75％値は 0.7mg/l 以下で推移しており、いずれの地点においても環境基準を満足しています。

高原川の水質は、上流でＡＡ類型に、下流でＡＡ類型に指定されています。近年の観測結果では、ＢＯＤ75％値は 0.5mg/l 前後で推移しており、いずれの地点においても環境基準を満足しています。

その他の支川の水質は、川上川でＡ類型に、小八賀川でＡＡ類型に、荒城川でＡ類型に、小鳥川でＡ類型に指定されています。近年の観測結果では、いずれの河川においても環境基準を満足しています。

宮川（高山市石浦町地内）	宮川（高山市川原町地内）	宮川（高山市森下町地内）
宮川（高山市森下町地内）	宮川（高山市大新町地内）	宮川（高山市大新町地内）
宮川（高山市桐生町地内）	宮川（高山市桐生町地内）	宮川（高山市桐生町地内）

2.7 庄川流域

①【流域】

庄川水系庄川は、その源を高山市荘川町の烏帽子岳（標高 1,625m）に発し、同市で尾上郷川、六厩川、大野郡白川村で大白川等を合わせて北流します。富山県に入り利賀川、和田川等の支川を合わせて日本海に注ぐ、流域面積 1,189 ㎞^{2}、幹川流路延長 115 ㎞の一級河川です。

このうち、県内の庄川流域は、流域面積約 725 ㎞^{2}、幹川流路延長約 48.4 ㎞です。

庄川流域は、県の北西部（中濃地区、飛騨北部地区）に位置し、２市１村（高山市、郡上市、大野郡白川村）から成ります。

白川村の合掌集落は、庄川沿いに形成されています。

②【地形・地質】

庄川流域は、東に飛騨高原、西に白山を始めとする両白山地に挟まれています。流域は深い渓谷が刻まれ、所々に崩壊地形が見られます。庄川やその支川沿いには小規模な河岸段丘が点在しており、この段丘を利用して白川郷などの集落が開けています。

流域の地質は、源流部では新第三紀安山岩類となっていますが、流域上流部の支川では、尾上郷川が中世期安山岩類を、また、六厩川が中世期石英斑岩山地を流れています。

③【気候】

庄川流域の気候は、日本海側気候に属しています。夏は涼しいが、雨は多い。冬は寒さが厳しく、雪天・曇天の日が多い。雪はきわめて多い。

流域の大部分が特別豪雪地帯に、残りが豪雪地帯に指定されています。

流域内にある気象庁地域気象観測所における平均年間気温（平成 14～18 年）と平均年間降水量（平成 14～18 年）は、白川で 11.5℃、2,703 ㎜、六厩で 7.5℃、2,685 ㎜です。

とりわけ、高山市荘川町六厩では、昭和 56 年２月 28 日には国内過去最低気温の－25.4℃を記録しました。

④【交通】

庄川流域の主要交通は、東海北陸自動車道と国道 156 号です。特に、平成 20 年７月に全線開通した東海北陸自動車道は、中京圏と北陸圏とを結び、今後の日本海交流ネットワークの要となる重要な路線です。

また、夏期に営業される白山スーパー林道は、石川県とを結ぶ路線で、重要な観光道路です。

⑤【自然景観・文化財・観光資源】

庄川流域内には、白山国立公園（高山市、郡上市、白川村）が指定されています。国定公園の指定はなされていません。県立自然公園の指定は、奥長良川（郡上市）、天生（白川村）の２箇所です。

庄川沿川は峡谷が連続しており、ダム湖とブナ・ナラ等の自然林が雄大な環境を創り出し、山々と広大な水面が調和して独特の景観を形成しています。

この流域では、樹齢 2000 年を越える「治郎兵衛のイチイ」（国の天然記念物）、樹齢 500 年を越える荘川桜（県の天然記念物）、おおた桜（県の天然記念物）、「山中峠のミズバショウ群生地」（県の天然記念物）、初夏に甘い香りを漂わせるササユリの群生地が有名な植生です。また、大白川園地は、ブナやミズナラなどの原生林を始め手付かずの自然が残る場所で、白山への登山口、白水湖、白水の滝（県の名勝）、野営場、露天風呂、山小屋があり、大自然を十分に堪能できます。

文化財としては、「白川郷の合掌造り集落」（世界文化遺産）、旧遠山家民俗館（国の重要文化財）、和田家（国の重要文化財）、明善寺郷土館（県の重要文化財）があります。

どぶろく祭り（10 月）は有名で、ひだ荘川ふるさと祭りでの 30 頭の連獅子（10 月）もあります。

その他の観光資源としては､ひるがの分水嶺公園､石川県に通じる白山スーパー林道、平瀬温泉、スキー場、ゴルフ場、昭和 36 年の建設時は東洋一を誇ったロックフィル型式の御母衣ダムなどが挙げられます。

県が選定した流域に残る「ぎふ歴史的土木構造物」としては、大正 15 年に営業運転を開始した庄川水系最古の「平瀬発電所」があります。

⑥【水質】

庄川の水質は、水質汚濁に係る環境基準の水域類型として、A類型に指定されています。近年の観測結果では、ＢＯＤ75％値は 0.7mg/l 以下で推移しており、環境基準を満足しています。

支川においては、水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定はありません。郡上市が御手洗川で実施した近年の観測結果では、ＢＯＤ75％値は 1.0mg/l 前後で推移しています。

庄川 （高山市荘川町新渕地内）	庄川 （高山市荘川町新渕地内）	庄川 （高山市荘川町新渕地内）
庄川 （高山市荘川町惣則地内）		

2.8 九頭竜川流域

①【流域】

九頭竜川水系九頭竜川は、その源を岐阜・福井県境の油坂峠（標高 717m）に発し、石徹白川、打波川等の支川を合わせ、大野盆地に入り真名川等の支川を合わせ、福井平野（越前平野）に出て福井市街地を貫流し日野川と合流、その後は流れを北に変えて日本海に注ぐ、流域面積 2,930 ㎞^{2}、幹川流路延長 116 ㎞ の一級河川です。

このうち、県内の九頭竜川流域は、流域面積約 75 ㎞^{2}であり、一級河川は、石徹白川（流路延長 7.3 ㎞）とその支川の前川（流路延長 1.7 ㎞）のみです。

九頭竜川流域は、県の北中部（中濃地区）に位置し、郡上市の一部（白鳥町石徹白地区）から成ります。

②【地形・地質】

九頭竜川流域では、北に銚子ヶ峰や芦倉山など両白山地の山々が連なり、盆地や扇状地、大小様々な河岸段丘が形成されています。

流域の地質は、第四紀火山岩類（安山岩類）が中心で、下流の一部では古成層ともなっています。

③【気候】

九頭竜川流域の気候は、日本海側気候に属しています。夏は涼しいが、雨はきわめて多い。冬は寒さが厳しく、雪天・曇天の日が多い。雪は多い。

流域全体が、豪雪地帯に指定されています。

流域内にある気象庁地域気象観測所において、気温は観測されていません。九頭竜川上流部の気温は、福井市よりも２～３℃低いことが経験的に知られています。福井市における平均年間気温（平成 16～18 年）が 14.8℃であることより、流域の平均年間気温は 12.3℃程度であると推定できます。

流域内にある気象庁地域気象観測所における平均年間降水量（平成 14～18 年）は、石徹白で 3,063 ㎜です。

近年の最大積雪量は、五六豪雪で記録した 510 ㎝です。

④【交通】

九頭竜川流域の主要交通は、一般県道白山中居神社朝日線と同石徹白前谷線のみです。両路線で国道 156 号と同 158 号を繋ぎ、福井県へと通じていますが、冬期は通行止めとなります。

⑤【自然景観・文化財・観光資源】

九頭竜川流域内には、白山国立公園が指定されています。国定公園、県立自然公園の指定はなされていません。

この流域では、樹齢 1,800 余年の「石徹白の大杉」（国の特別天然記念物）、大師堂の銅造虚空蔵菩薩坐像（国の重要文化財）、石徹白城趾が主な文化財です。

観光資源としては、四季折々の自然と、スキー場が挙げられます。

流域内には、「ぎふ歴史的土木構造物」はありません。

⑥【水質】

石徹白川および前川においては、水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定はありません。郡上市が前川で実施した近年の観測結果では、ＢＯＤ75%値は 1.0mg/l 未満で推移しており、良好な水質を維持しています。

石徹白川 （郡上市白鳥町石徹白地内）		石徹白川 （郡上市白鳥町石徹白地内）
石徹白川 （郡上市白鳥町石徹白地内）	石徹白川 （郡上市白鳥町石徹白地内）	石徹白川支川宮川 （郡上市白鳥町石徹白地内）

3. 各流域河川の特徴と自然環境

ここでは、各流域を代表する河川を取り上げ、各河川の特徴と自然環境を紹介します。なお、ここに記載する文章は、各土木事務所の河川担当者が作成したものです。

3.1 木曽･飛騨川流域

①可児川（可茂土木事務所）

可児川はその水源を瑞浪市高根権現山に発し、御嵩町美佐野地内において津橋川を合流し、その後、平芝川、切木川、唐沢川、真名田川、比衣川の順に合流した後に可児市に入り、瀬田川、久々利川、横市川、矢戸川の順に合流して木曽川へと注ぎ込む流域面積 141.3 km^2、流路延長 23.9 kmの一級河川である。

木曽川合流点より 2.4 km上流の戸走橋までの区間は河床河岸に岩盤が露呈している急流部でそのほとんどが天然河岸を形成し、渓谷状を呈している。2.4 km～6.0 km（久々利川合流点）の区間は河床に岩盤が露出しており、それより上流については河床に土砂が堆積しており、瀬や淵が形成されており、水辺にはカワヤナギ、ネコヤナギなどのヤナギ類、水際にはヨシ、マコモなどの抽水植物、河川敷にはクサヨシ、チガヤなどの分布が見られ、魚類はオイカワ、カワムツ、ドジョウなどが生息している。

可児市下恵土地内	可児市広見地内	可児市広見地内
可児市広見地内	可児市中恵土地内	御嵩町美佐野地内

②坂本川（恵那土木事務所）

坂本川は、中津川市茄子川地内に端を発し、中津川市茄子川地内において千旦林川に合流する、流域面積 10.2 km^2、流路延長 3.6 kmの一級河川である。流域内には、関連事業として中津川中核工業団地造成事業と下流下洗井地区の県営圃場整備事業が施工されている。坂本川では、昭和 57 年度に全体計画を策定し、木曽川合流部付近の稲荷橋～国道 19 号交差部までを小規模河川改修事業として改修を進めてきた。現在は、鉄道橋緊急対策事業にてＪＲ中央本線横断部に改修と、公共小規模河川改修にて河川改修を行い、治水安全度の向上を図っている。

坂本川にはカワムツやオイカワ（いずれもコイ科）、ヨシノボリ（ハゼ科）が多く確認されている。加えて、ヌマエビも少数ながら確認されているため環境としては良好である。水辺を囲むヨシ原は、小動物や鳥類の生息拠点として重要な環境となっている。10.8k 付近に隣接する堤内地には池があり、その周辺にはエノキ・ムクノキ群落やヤブガラシ・カナムグラ群落が形成され、また、河道には小規模ながら早瀬があり、水際に植物が多く魚類や小動物の良好な生息地となっている。

中津川市茄子川地内	中津川市茄子川地内	